

## 調査結果のまとめ

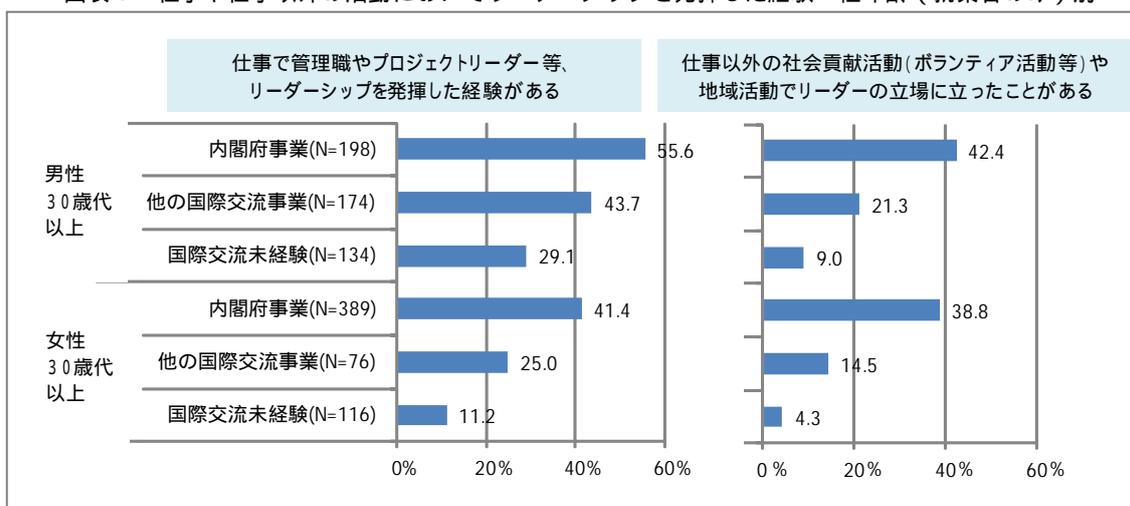
### 1 総括

#### (1) 内閣府青年国際交流事業の効果

##### 仕事や社会貢献活動等への活発な参加とリーダーシップの発揮

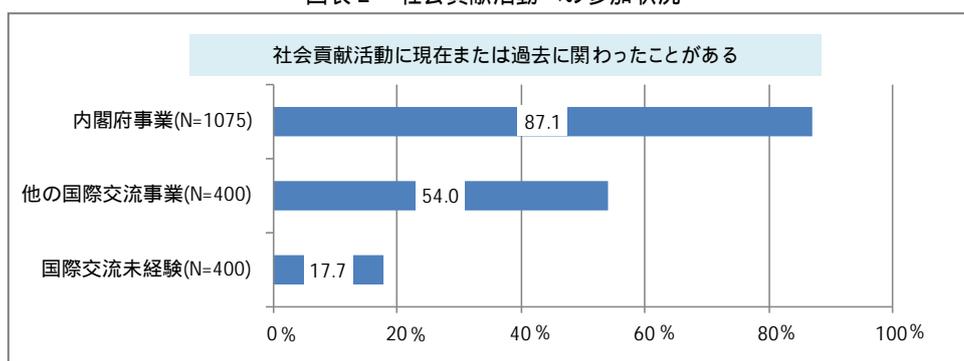
- ① 内閣府事業参加者は他の国際交流事業参加者に比べて、いわゆる民間企業での管理職といったポジションには必ずしも反映されているわけではないが、仕事や社会貢献活動においてリーダーシップを発揮する機会をより多く有している。特に、30歳代以上でその傾向が如実である(図表1)。

図表1 仕事や仕事以外の活動においてリーダーシップを発揮した経験<性年齢(就業者のみ)別>



- ② 事後活動や社会貢献活動への参加については、内閣府事業参加者の活動が際立っている。事後活動については、現在または過去に参加したことがある人が9割近くに上り(図表2)、参加する社会貢献活動も国内外にわたる。

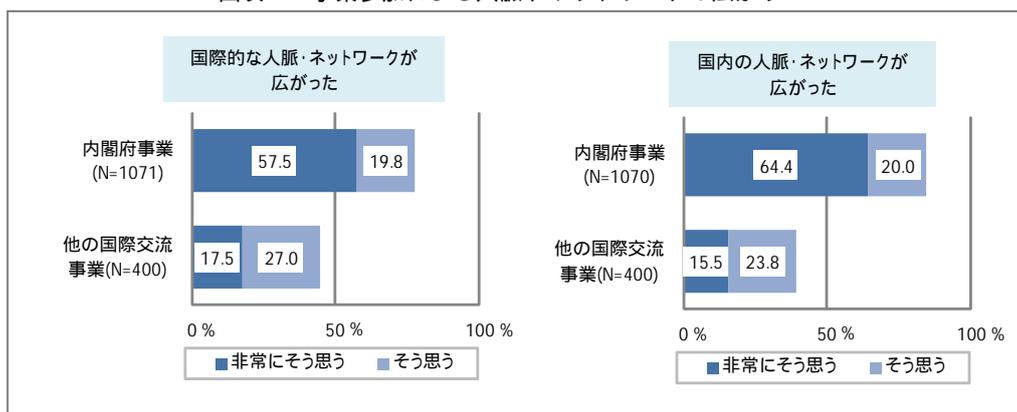
図表2 社会貢献活動への参加状況



##### 国内外の強いネットワークを活かした活動・キャリアの発展

- ③ 内閣府事業参加者は、事業を通じて人脈・ネットワークが広がったとより強く感じており(図表3)、知り合った外国人や国内人材との交流が長期にわたって継続している。そして、その人脈・ネットワークは同一年の参加者間のつながりだけでなく、OB・OGや他国の事後活動組織との関わりまで及ぶ。

図表3 事業参加による人脈やネットワークの広がり



- ① これら豊富なネットワークが、事業参加後の仕事上のキャリアの形成や仕事以外のさまざまな活動で大いに生かされている。たとえば、外国現地とのネットワークを活かして国際的な事業を起業したり国際交流活動を立ち上げたりする取組が行われている。
- ② こうした強いネットワークは、国際交流の発展や国内外の様々な社会課題解決に向けた活動に寄与すると共に、国外における知日派・親日派の拡大につながっていると考えられる。

#### 人生やキャリアへの強く持続的な影響

- ① 内閣府事業参加者は、他の国際交流事業参加者に比べ、問題解決力、他者・多文化間における調整力、日本人としてのアイデンティティ等、グローバルリーダーに必要と考えられる能力やマインドを身に付けたと感じている割合が高い。そして、よりキャリアや人生を自分自身で「主体的に切り拓いてきた」と感じている。
- ② 内閣府事業参加者は、参加から年数が経っても事業参加が人生やキャリアに与えた影響を長く感じ続けている。そして、仕事や仕事以外の活動をする上で事業参加経験が非常に役立っていると回答する割合は、参加から年数が経っている層の方がより高い。総じて事業が与えた影響が長く続く傾向がある。
- ③ このような影響は、仕事上でのキャリアといった外形的なものだけではなく、異文化・異空間の経験の中で混乱や葛藤、衝突を乗り越えて得た「生き方の姿勢やものの見方」、「人や文化に対する理解」、あるいは「自分自身に対する自信」など、より全人的なものとして捉えられている。

#### 国際交流事業の効果

- ① 内閣府事業に限らず、国際交流経験者は、未経験者に比べて、国内のみならず国際的に活躍し、仕事や社会貢献活動等においてリーダーシップを発揮していることが多い。また、社会貢献活動やスキル開発に取り組んでいる割合が高い。

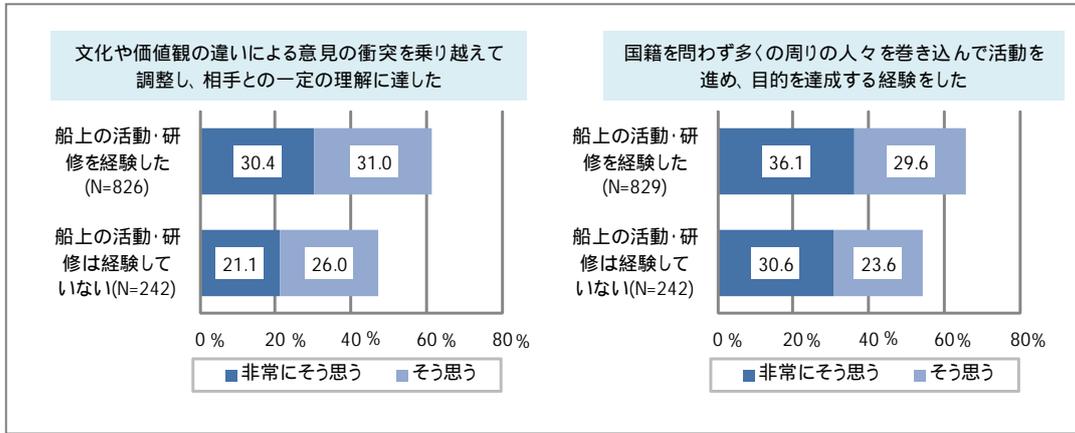
#### (2) 「船」を使うことの効果

##### 船上活動で育まれる人間力・ネットワーク

- ① 内閣府事業参加者のうち船上活動を経験している者は、船上活動における経験が、その後の人生やキャリアに大きな影響を与えたと感じている。特に、船上活動経験者が未経験者よりも大きな影響を感じている具体例としては、「生き方の姿勢やものの見方の変化」等が挙げられる。

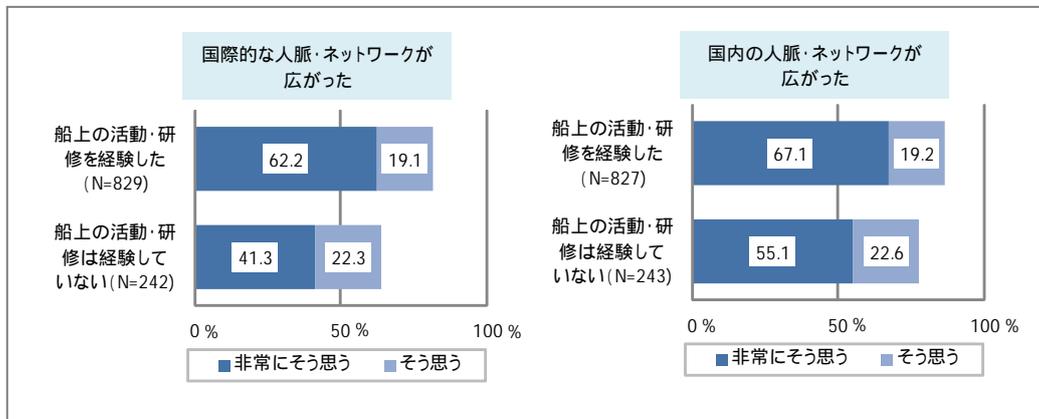
- 船上活動経験者は、社会と隔絶された環境で言葉や文化の全く異なる人々との共同生活のなかで、意見の衝突や挫折を経験する者が多い。その上で、直面した問題を皆で乗り越えていくことで、他では得られない人との絆、人間力を育むという経過をたどっていると考えられる（図表4）。

図表4 事業参加期間中の経験<内閣府事業参加者・船上活動の有無別>



- 更に、船上で多くの国籍の人との活動を経験することにより、周りの意見に耳を傾け、調整し、まとめていくリーダーシップ力を獲得したと感じている。国際的・国内共に人脈やネットワークが広がったと感じている割合も船上活動経験者の方が高い（図表5）。

図表5 事業参加による人脈やネットワークの広がり<内閣府事業参加者・船上活動の有無別>



船上研修の望ましい要件

- 普段とは異なる空間・言語・人間関係の中で生じる緊張・混乱から、自身をコントロールして危機的状況乗り越え、新しい学びを得るまでには、1ヶ月を超える航海期間は必要であると多くの参加者が考えている。また、参加青年が同じ環境で活動できる海外航海の方が、対等な立場で交流を深めることができ、より意義が高いといった意見も参加者から寄せられた。

## (3) 内閣府事業参加者のケース事例

## 【事業のネットワークを活用した起業】

属性	「東南アジア青年の船」参加者	男性・30歳代 京都府在住
経歴	英国大学院への留学、社会経験（金融アナリスト）を経て、28歳の時、第36回（平成21年度）に参加。	
現況	事業参加で培った人脈を生かして起業し、インドネシアからの輸入原材料を活かした製造・販売業を運営する傍ら、昨年には東南アジアから日本へ進出を計画する企業向けコンサルティング会社も設立。	

## &lt;事業参加による意識変化、行動、社会への働きかけ&gt;

- 1 事業では、海外からの参加青年との議論に「知的な楽しさ」を感じるとともに、その優秀さを目のあたりにして危機感を感じる。アジアの貧困問題の解決に関心があったが、むしろ発展するアジアの国々の勢いにのった事業を立ち上げるべきと決意。
- 1 参加後、1年でインドネシアのカカオの品質向上支援、輸入、加工販売を行う会社を創業。創業にあたっては、同期の事業参加青年から生産地スラウェシ島の生産者を紹介してもらい、現地情報を収集。さらに、30年以上前の事業OBでインドネシア大使館関係者の協力を得て輸入ビジネスを事業化。ほぼ全ての大手百貨店や有名ホテルとの取引を結んだほか、約20のビジネスコンテスト受賞や各種助成金を授与され、日本と海外を結ぶ地域の創業事例として注目を浴びている。
- 1 事業で得たものを社会に還元するという意識から、社会貢献活動として、事業参加後から創業までの経緯や国際理解等に関して、全国の小中学校、大学にて講演を続けている。

## 【世界船での体験から新たなキャリアを築く】

属性	「世界青年の船」事業参加者	女性・30歳代 東京都在住
経歴	小学校・中学校・高校時代にアメリカでのホームステイ・国際交流プログラム・留学を経験。大学在学中は、シンガポール、インドネシア、中国、香港、マカオへの渡航を経験。大学4年生の1月から第10回（平成9年度）に参加。	
現況	世界船でアラブの人々や文化に魅了され、アラブ圏の研究を開始。チュニジア・エジプトへの留学、調査のためのエジプト滞在の後に博士号を取得、国立大学の北アフリカに関する研究センターへ着任した。	

## &lt;事業参加による意識変化、行動、社会への働きかけ&gt;

- 1 事業に参加し、アラブ人の仲間を思いやる気持ちや懐の深さに魅了された。彼らの中に日本人との共通点のようなものを見出し、この温かさはどこから来るのか、彼らの文化を学びたいと考えられるようになった。
- 1 参加前既にアメリカでのホームステイ・留学・国際交流プログラム、中国への短期語学留学、インドネシアでの国際交流活動などを経験しており、進学の設定していた大学院ではアメリカ研究をやるつもりであったが、世界船でアラブの人々に出会ったことで中東研究へのコース変更を決意。在学中にチュニジア・エジプトへ政府奨学生として留学、博士論文の調査のためのエジプト長期滞在も経験した後、博士号を取得。現在は国立大学の中東・北アフリカ・地中海圏に関する研究センターに研究者／教育者として勤務している。
- 1 自身の国際交流経験から得た学びを振り返り、学生たちにも現地に行って現地の文化に触れてほしいという思いから、大学主催の語学研修プログラムを担当している。また、全学でのアラビア語の授業を開講。大学の国際化に寄与している。
- 1 更にNHK文化センターや自治体でイスラーム文化に関する講座の講師、被災地での出前授業など、中東・北アフリカの宗教・文化研究の分野で活躍中である。

## 2 今後の事業の展開に関する主な論点の整理

本調査研究においては、「1 総括」に示されたアンケート及びヒアリングの結果分析を踏まえて、今後の国際交流事業のあり方について委員から様々な意見が出された。それらのうち主な論点を以下に整理する。

### 今後の効果測定のあり方について

- i 事業の効果測定に関しては、従来より事後研修における参加青年アンケートや事業関係者（指導官等）による評価を実施し、昨年度から参加青年による自己評価を実施する等の各種評価を行ってきた。また、本年度、事業の長期的な効果について検証するものとして、本調査研究において事業参加から数年経過後の日本青年に対するアンケート調査を実施し、本調査研究に並行して外国青年に対するアンケート調査も行われたところである。
- i 今後、社会経済環境や国際情勢など周辺環境の変化等を踏まえながら、事業の発展に向けてより効果のある事業の実施方法・プログラム内容に見直していくべく、有用な効果測定のあり方について検討を深めながら、単年度・中長期の両面で、継続的に事業の効果測定を行っていく必要がある。
- i 特に単年度での取組としては、参加青年による自己評価を強化するとともに、事業参加によって参加青年に現れた態度・スキルの変化を追跡し、可能な限り客観的に把握する等の取組を検討していくことが考えられる。
- i 効果測定の結果を事業の実施に反映していくP D C Aサイクルの確立が重要であり、外部有識者が参加するプログラムコミッティーのような会議体において、当該年度の事業実施前に、具体的なプログラムの内容を検討することが望ましい。

### 事業の広報・参加促進について

- i 近年、国際交流事業の参加者が学生や公務員、教員等が多くなる傾向があるため、多様性を確保する観点から、民間企業経験者の参加を増やす方策について検討する必要がある。
- i 民間企業にとって若手社員を国際交流事業に参加させることが、若手社員の語学力やグローバル感覚の向上や国際ネットワークの形成につながり、人材開発の場の一つとして活用価値があることについて民間企業の理解を深める取組が求められる。
- i また、企業のニーズを取り込めるよう、上記コミッティーに民間企業の視点を持つ者の参加が望ましい。
- i 特に、地方の中堅中小企業等で、人材開発に独自のシステム・予算を持って取り組むことは難しい企業等に対する参加促進を行っていくことが望まれる。
- i また、職業的バックグラウンドだけでなく、出身・居住地域を含む様々な属性において多様な人材が参加できるよう、事業の広報や参加者選定の方法について検討を深めることが求められる。そのため、英語のスキルレベルについて、応募時点では必ずしも全員に高い水準を求めなくてもよいのではないか。

### 3 アンケート調査結果のまとめ

#### (1) アンケート調査結果の全体的なまとめ

- ① 回答者の特性については、年齢構成は各群同様だが、性別構成が内閣府事業参加者において女性が多い特性があることに留意する必要がある。
- ② 一般的に、国際交流事業経験者は、未経験者に比べてキャリアやスキルの達成度や社会貢献活動への参加率が高く、スキル開発への取り組みも積極的である。
- ③ 内閣府事業参加者は、他の国際交流事業参加者に比べて事業参加の人生やキャリアへの影響を如実に感じており、「キャリアや人生を主体的に切り拓いてきた」と感じている割合が高い。そしてその影響は、事業参加時の年齢が若いほど、また事業参加後に期間が経っても強く感じられている。
- ④ 内閣府事業参加者は、事後活動の活動割合が高く、社会貢献活動への参加割合も高い。また、事業参加後の国際的な交流の継続がより活発に、広がりをもってみられる。
- ⑤ キャリアに着目すると、就業している場合のポジションについては、他の国際交流事業参加者の方が概して高い。しかし、内閣府事業参加者の場合についても、いわゆるポジションではなくとも、仕事の上や社会貢献活動の場においてリーダーシップを発揮した経験が多くみられる。
- ⑥ 内閣府事業の中でも、船上活動を経験している方が、多文化との衝突や相互理解に関する経験をしたと回答し、意思決定に当たっての衝突時の調整・交渉についてのスキルを身につけていると感じている。国際的な人脈・ネットワークが広がったと回答する割合も高い。また、生き方の姿勢・ものの見方や、リーダーシップやマネジメント力の向上への影響を回答する割合も高い。

#### (2) 項目別にみた主なアンケート調査結果

##### 【1】回答者の特性

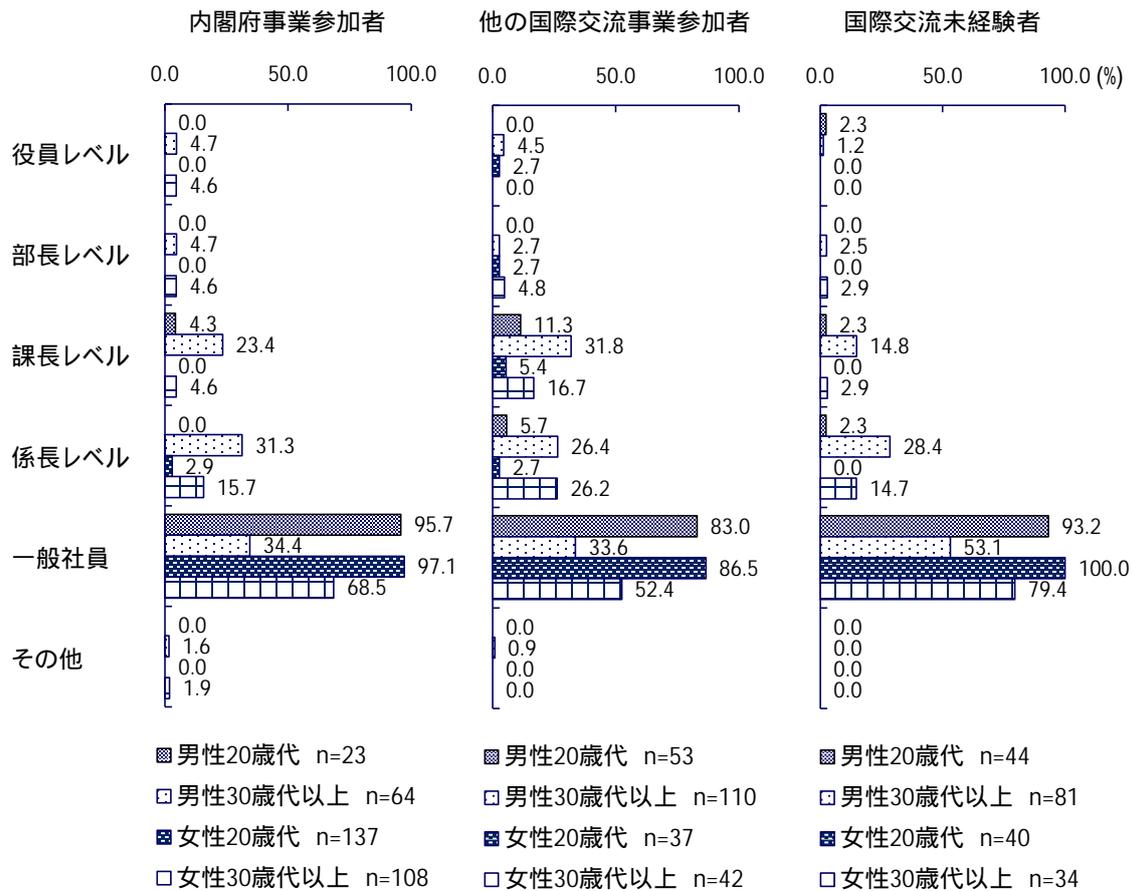
###### 年齢層・性別

- ① 内閣府事業参加者、他の国際交流事業参加者、国際交流未経験者ともに、「20歳代」が4割弱と年齢層は類似（p.26）。
- ② 性別については、内閣府事業参加者では「女性」が7割超であるのに対し、他の国際交流事業参加者では「男性」が6割超、国際交流未経験者では男女がほぼ同数と異なる（p.27）。

###### 就業状況

- ① 内閣府事業参加者のうち、「働いていない」は7.3%。なお、他の国際交流事業参加者、国際交流未経験者については、「就業者のみ」を対象としている（p.28）。
- ② 就業している場合のポジションは、概して、他の国際交流事業参加者 > 内閣府事業参加者 > 国際交流未経験者の順で高い傾向がある（p.30）。民間企業勤務（正社員）に限定してみた場合も同様の傾向にある（p.31）。

図表 就業している場合のポジション<性年齢階級別(民間企業勤務(正社員)のみ)>



参加している事業の種類、他の国際交流の経験

- ① 内閣府事業参加者のうち、約半数が「世界青年の船」事業 (p.32)。約半数が事業参加前に内閣府事業以外の国際交流参加経験あり (p.38)。
- ② 他の国際交流事業参加者が経験した国際交流は、「学校が主催する国際交流事業(修学旅行や研修旅行以外)」と「民間企業が実施する国際交流事業」が多い (p.39)。約4割が他の国際交流参加経験あり (p.50)。「船上での活動・研修」は4.0%と経験している割合は低い (p.47)。

【2】国際交流事業への参加に際しての経験と人生・キャリア等への影響

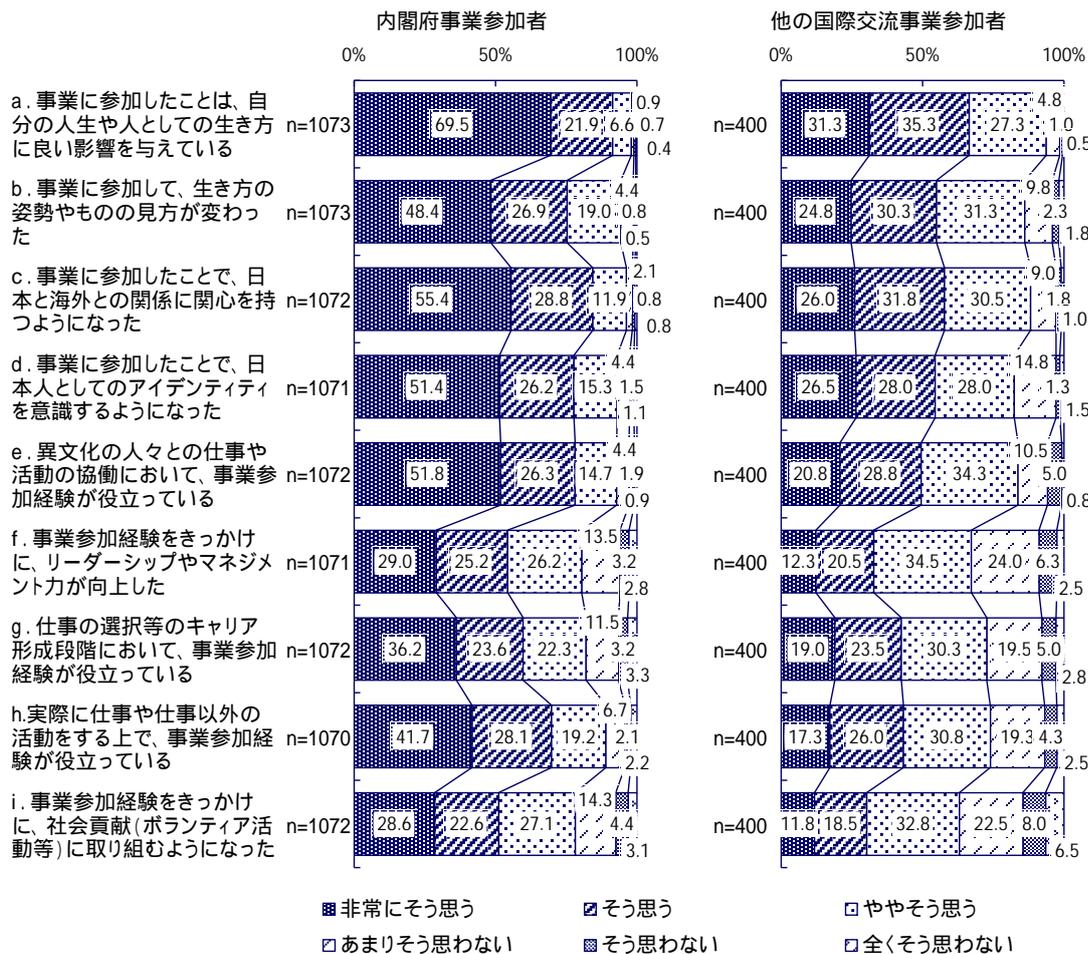
事前研修について

- ① 事前研修が十分に行われたと感じている(「非常にそう思う」+「そう思う」(\*)割合は、内閣府事業参加者が65.6%、他の国際交流事業参加者は42.5%である (p.51)。  
以下、(\*)と記す場合は「非常にそう思う」+「そう思う」の割合合計の数値で記載

事業参加による人生やキャリアへの影響

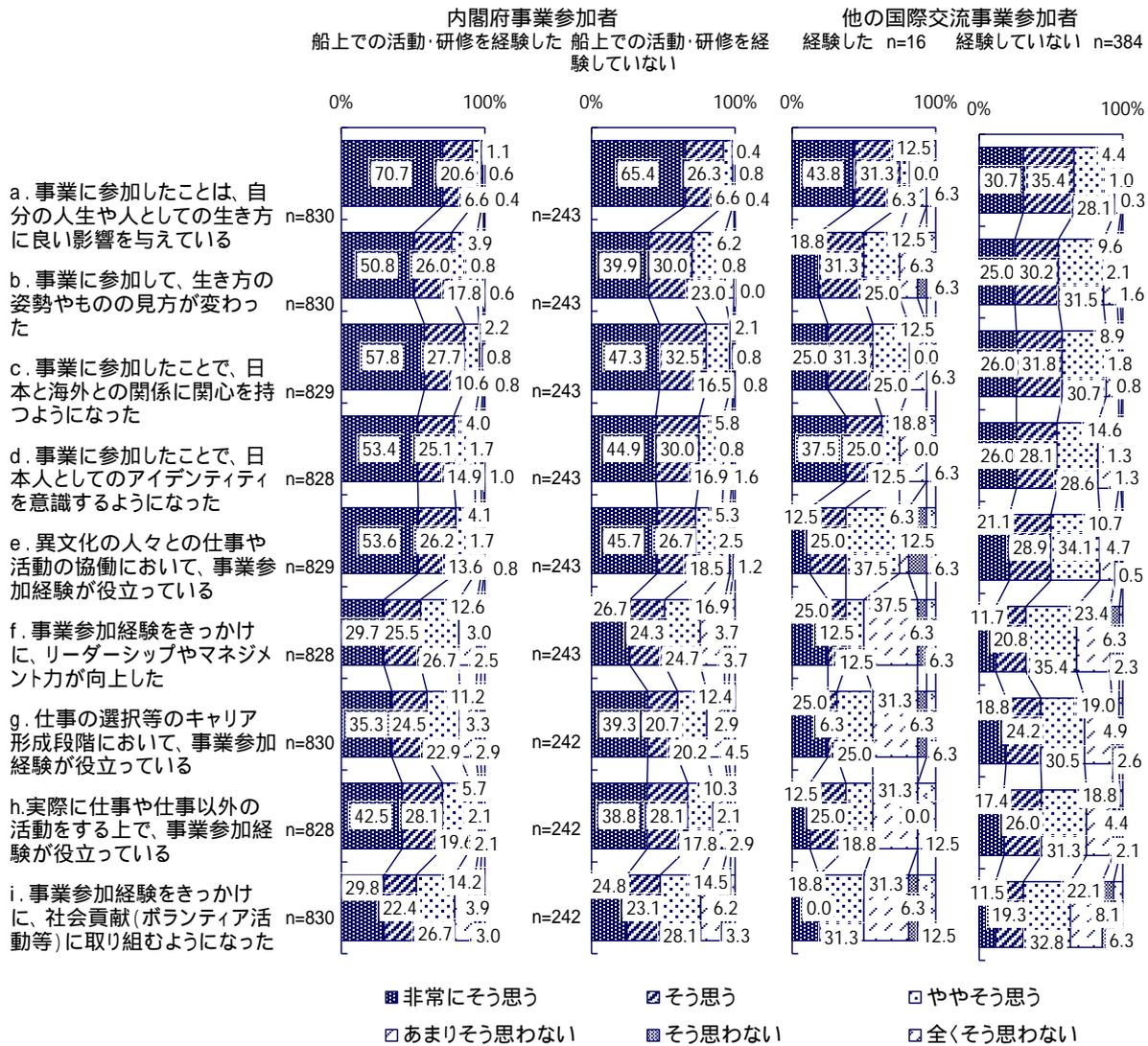
- ① 事業参加が人生やキャリアに与えた影響については、内閣府事業参加者において他の国際交流事業参加者よりも、すべての項目で良い影響があったと回答する割合が高く、かつ「非常にそう思う」と強い影響を回答する割合が高い。特に「人生や人としての生き方に良い影響を与えている」と感じている(\*)割合は9割を超える (p.52)。

図表 事業参加による人生やキャリアへの影響



- ① 事業参加が人生やキャリアに与えた影響について、内閣府事業参加者について事業参加からの期間別にみると、「非常にそう思う」と強い影響を回答する割合は事業参加後の期間が経っても低減せず、むしろ参加後の期間が長い方がその割合が高い項目もある (p.54)。また、参加時の年齢別では、18～22歳の若年期に参加した方が概してさまざまな点において影響を強く感じている (p.56)。
- ② 内閣府の事業種類別では、「世界青年の船」事業において他事業に比べて「社会貢献(ボランティア活動等)に取り組むようになった」と感じている(\*)割合が高い。グローバルリーダー育成事業では「リーダーシップやマネジメント力が向上した」と感じている(\*)割合が他事業に比べて高い (p.58)。
- ③ 内閣府事業のうち船上活動の有無別では、船上での活動・研修を経験した方が、ほぼすべての項目で良い影響があったと感じている(\*)割合が高い。特に、「生き方の姿勢やもの見方が変わった」と回答する割合の差が大きい (p.59)。

図表 事業参加による人生やキャリアへの影響 < 船上活動の有無別 >



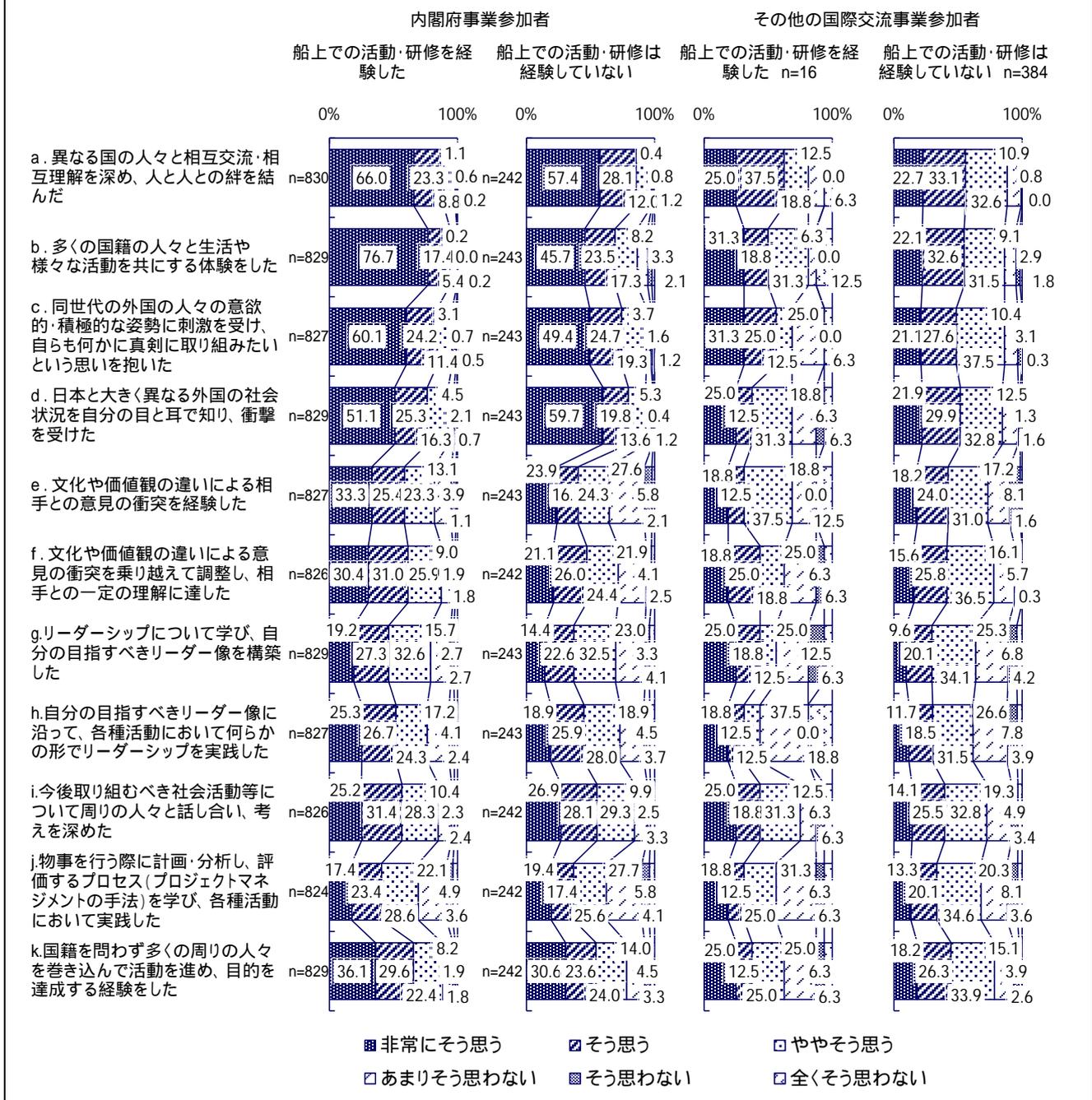
① 内閣府事業のうち、「世界青年の船」事業においては、活動・経験の中でも「船上の活動・研修」について人生やキャリアへの影響が大きいと回答する割合が高い (p.66)

事業参加期間中の経験

- ① 事業参加期間中の経験についても、すべての項目で良い影響があったと回答する(\*) 割合が、内閣府事業参加者において他の国際交流事業参加者よりも高く、かつ「非常にそう思う」と強い影響を回答する割合が高い (p.60)
- ② 内閣府の事業種類別では、「世界青年の船」事業において他事業に比べて「文化や価値観の違いによる相手との意見の衝突を経験した」と感じている(\*) 割合が高い。他方、グローバルリーダー育成事業では「リーダーシップについて学び、自分の目指すべきリーダー像を構築した」や「自分の目指すべきリーダー像に沿って、各種活動において何らかの形でリーダーシップを实践した」と感じている(\*) 割合が高い (p.62)
- ③ 内閣府事業のうち船上活動の有無別では、船上での活動・研修を経験した方が、すべての項目で良い影響があったと感じている(\*) 割合が高い。特に、「多くの国籍の人々と生活や様々な活動を共にする体験をした」、「同世代の外国の人々の意欲的・積極的な姿勢に刺激を受け、自らも何かに真剣に取り組みたいという思いを抱いた」、「文化や価値観の違い

いによる相手との意見の衝突を経験した」、「文化や価値観の違いによる意見の衝突を乗り越えて調整し、相手との一定の理解に達した」、「国籍を問わず多くの周りの人々を巻き込んで活動を進め、目的を達成する経験をした」と回答する割合の差が大きい ( p.63 )

図表 事業参加期間中の経験 < 船上活動の有無別 >



事業参加による人脈やネットワークの広がり

㊦ 内閣府事業参加者の方が他の国際交流事業参加者よりも、国際的・国内共に人脈やネットワークが広がったと感じている ( \* ) 割合が高い ( p.75 )

㊦ 事業参加時の年齢別にみると、参加時の年齢が若いほど、国際的・国内共に人脈やネットワークが広がったと感じている ( \* ) 割合が高い ( p.76 )